



目次:

植樹祭の案内	1
行事報告	2
講演の感想	2

# 森を再生する会会報

第8号

2004.9.26

～人生を夢とロマンに懸ける人々の集まり～

## 紅葉の植樹祭への誘い

特定非営利活動法人森を再生する会

理事長 神谷 輝 幸

紅葉燃ゆるここ段戸で植樹祭を開催するに当たって、ご挨拶申し上げます。

日本の国土は68%が森林で年間を通じて豊かな降水量に恵まれ、瑞穂の国とも呼ばれるほど自然豊かな国です。しかし、昭和30年代ころから自然の多様な恵みを無視し大規模に杉・檜の植林を行いました。結果、国産材の需要が減少し、山は手入れされず放置林となりました。結果、生態系の崩壊、大雨が降ればいたるところで山崩れが起きる。今まさに、山は荒れ森は死んでいます。

### 生態系豊かな自然林が水質の悪化、水不足へ

手入れされた人工林や生態系豊かな自然林は、保水力にすぐれ雨が降ると緑のダムとして水を蓄え、徐々に川に水を流し、降水量の30%は地下水へと導きます。今森林はこの機能が著しく低下し、水質の悪化、水不足をきたしております。事実、今年の夏設楽町田峯西川を流れる溪流に藻が異常発生し、川底が一面緑に覆われました。保水力が極端に落ち、水質が悪化したと推測されます。

「以前はこういう現象は起こらなかった」と古老は証言します。山で生活し川を見つめ、肌に触れ、舐めて、匂いをかいでつかんだ古老の感性こそ本物です。水や空気は自然の恵みであったが、気がつけば、私たちの生活は、自然の恩恵から離れていくばかりです。自然の摂理を無視した開発や自然の破壊の付けが回ってきています。

### 森林は食物連鎖の出発点！

現在日本には、約180種類の野鳥（渡り鳥をのぞく）と、120種類の獣類があるとされています。健康な森林にはこの大部分の鳥獣類と、ミミズなど沢山の地中にすむ動物が息し、酸素いっぱい豊かな環境で動物社会を形成しています。それらの動物のフンや死骸、木々の落ち葉や落枝は、地中のバクテリアによ

って、分解され有機養分となり木々の栄養になり森林に住む動物に実りを与えるのです。

それらの栄養分は、森林に住む動植物にだけ、恩恵を与えるものではありません。栄養分は、ゆっくりと森林地中の地下水にしみ込み、それは溪流となり、麓の川に流れ込み、やがて海にたどり着きます。川や海での栄養分は、プランクトンのエサになり、プランクトンは小魚のエサとなり、小魚はより大きな魚のエサになるのです。また、川の栄養分は、農業用水や麓の地下水となり、それが、私たちが毎日食べるお米や野菜やくだものになるのです。森林は、森社会だけではなく、川や海や人間の社会も生き生きと実りあるものにするのです。そのような、食べ物を中心とした循環を、「食物連鎖」といいますが、この循環系の、出発点に森林があるのです。

### 生態系豊かな生きた自然林への林層転換

私たちはこうした状況の中で、生態学者宮脇昭先生の提唱するエコロジーの脚本にしたがって、「ふるさとの木によるふるさとの森づくり(水源の森づくり)」を行います。スギ・ヒノキの育林は専門の林業家にお任せし、私たち市民のレベルでは、放置林を借り受け、人間が手を入れなくても良い生態系豊かな生きた自然林へと林層転換をします。この緑のダムからの水は、矢作川・豊川に注ぎ、田畑を潤し、市民の飲料水となりやがて三河湾に注ぎ、豊かな海をよみがえらせます。ここに、流域住民が集まり、互いに手を携えて植樹する意味があります。

どうかこの意義をご理解いただき植樹祭への多くの方のご参加と成功することを祈っています。



### 国土緑化推進機構から助成決定！

5月26日に「緑の募金公募事業」に応募したところ、私たちの行っている「流域住民で作る水源の森づくり」事業に対して、9月1日付で交付金交付決定通知を受けました。

事業期間は平成16年9月1日から平成17年8月31日までの1年間です。交付金決定額は100万円です。

秋の植樹、春の植樹と私たちの活動も一層弾みがつくと思います。

## 宮脇昭先生講演会を終えて

その土地には、土地本来に合った森がある！

世界で実証した  
宮脇方式の植樹

8月28日(土)、私たちNPO森を再生する会が師と仰ぐ宮脇昭先生の講演会を感動のうちに終えることができました。宮脇先生自身が男のロマンを実践しておられる姿に胸を打たれます。

その土地には、土地本来に合った森がある！

目で見、匂いを嗅ぎ、なめて、触って調べろ！

確固たる理論と経験から、土地本来の森を調べ、世界中の森林を再生し続ける植物生態学者宮脇昭先生。これまで、3000万本の木を植え、今もポット苗を手を突進し続ける。

**「心に木を植えましょう！」**

先生の話には常に情熱と教訓が満ちています。森が死んでいるのは、人間の心が荒れている結果ではないのか？死んだ森を魂の森に蘇らせよう！死んだ森を魂の森に蘇らせよう！こんなメッセージが聞こえてきました。

参加者の声

先生お話を聞き、先生の活躍と行動力に感動！植樹の実際や土地本来の樹木を植樹する大切さを学びました。

海外の日本人の植樹では、残るのは看板だけという話がありました。

植樹した沢山の苗は枯れてしまい、残るのは〇〇協賛植樹という印(看板)だけなのだそうです。何の意義があるのか、…。ただの自己満足だと感じました。植樹する事、それはそこに根付く木々を植え森を作ることなのだ実感しました。その地域に合った植生を研究し、どんぐりから育て、植樹を成功させた先生の活動と実行力に感動しました。

先生の方式を忠実に守れば、本物の森作りが出来るのだと再認識し、今後の活動への自信となりました。

大崎

参加者の声

人生最高の出会い

三浦 進

今回の講演会では、宮脇先生の運転手をつとめ、昼食を共にし、先生のお人柄に触れることができ感激しました。先生のお話を聞いて目から鱗でした。本物の森づくりを教えてもらいました。本来の森は土地本来の木を混植・密植し、後は自然に任せることが大切で確かな方法であることがわかりました。先生の話は、先生自身が自分の足で歩いて調査し、実践した裏づけのある理論ですから説得力があります。

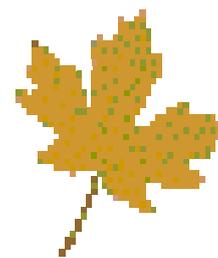
「自分の言ったことが間違っておれば腹切りものだ。」この言葉に科学者としての厳しさがあります。鋭い目を持って、物事の真実を実証的につかんでいく姿勢が並みの科学者と違います。

76歳と思えないエネルギーを感じますが、食事をはじめ自己管理をしっかりとっておられる意志の強さ・生



宮脇先生揮毫による「緑のダム」。私たちのフィールド「流域住民でつくる水源の森」入り口に碑が完成しました。是非一度ご覧下さい。

感想やご意見お待ちしています！



間伐・植樹・草刈など実際に参加しての感想やご意見をお待ちしています。また、現地には行けなくても会員からの多くのご意見をお待ちしています。連絡先は事務局(榎原)まで。

いよいよ山についた。男子は僕一人だった。苗を植えるとき、穴を掘るのに時間がかかった。やっとの事で穴掘りを終えた。次に、炭を入れてください。たった一本でもこんなに疲れるとは予想していなかった。僕は5本の木の苗を植えた。すぐつかれてたおれるかと思った。そしたらお昼の休けいになった。「めし、めし、おにぎりー。」と叫びながら、お弁当のあるところに行った。お弁当がめっちゃうまく感じた。その後は川に入って遊んだ。とてもおもしろかった。午後は丸太を運んだ。ばかにかい丸太を持ち上げた。すぐたいへんだった。でも、持ち上げた時は気持ちよかった。

梅村君

お父さんとお母さんと弟と友達に行きました。山に着いてから、すぐ山の仕事をしました。午前中は木の枝をもやしました。すぐ目がいたくなりました。お昼を食べてから、川の中で遊びました。とても気持ちよかったです。午後からは、木を植えました。少し枝もやしました。木の下などにカニがいまいした。わたしは水がなくてもカニは死なないのかなあと思いました。それに大きなミミズがいまいした。指の太さくらいありとてもびっくりしました。

まみさん

土曜に植樹会に行きました。先生の車に乗って行きました。すごく遠かったです。着いたところはすぐ山おおくでした。まず最初に神谷さんに木の説明を聞きました。その後山の中に入って仕事を始めると、トカゲやものすごい太いミミズやいろいろな虫ができました。気持ち悪かったです。僕は火の中にえだを入れてもやしました。すぐつかれました。それにけむりがもくもくと出てきてとてつむけむたかったです。その後、昼ごはんを食べました。おいしかったです。川でみんなで遊びました。つめたかったです。午後からは苗を植えました、やり方はかんたんでした。ぼくはいっぱいえを植えました。仕事の後、おみやげに丸太をもらいました。重かったです。すぐつかれたけど、また行きたいです。

だいきくん

わたしは「森を再生する会」は2回目で、楽しみな事がいっぱいありました。一つは前に植えた木がどれだけ大きくなったか見たかったからです。二つ目は水遊びです。そのほかにもいっぱいあります。

山に着いて、午前中は山の片付けをしました。枯れた葉などを燃やしました。子どもたちだけで火の番をして、一番たくさんけむりが出ていました。午後は木を植えました。まみちゃんと一緒に植えました。植樹会で木を植えると、次のときにその木を見にいけるから、何度でも行きたいです。

あいみさん

今回はバスがなかったので、まみちゃんの車に乗せてもらいました。行きにちょっと迷いました。着いたらまず山の水を飲みました。久しぶりに飲んだので、味がこんな味だったかな?と思いました。最初に木の種類を説明してもらってから、作業に入りました。仕事のはじめはスギなどの枝や葉を集めてもやすことでした。枝や葉っぱをもやすとけむりが出ます。わたしは、煙にまきこまれてしまったので目がいたくなりました。火がついたり消えたりしました。お昼からの作業が始まる前に小川で遊びました。こけが水びたしになりました。ぞうりも脱げて大変でした。お昼からは木を植える作業をしました。前よりかんたんにできました。家に着いたとき、楽しい一日だったなあと思いました。

じゅりさん

## 宮脇昭先生の講演の感想

事務局長 榊原

宮脇先生の講演会は映像とスライドを駆使した迫力満点の気合がほとばしる感動の時間でした。心に木を植えましょう。森の下にはもう一つの森がある。引き算はやめて足し算をしていきましょう。「混ぜる、混ぜる混ぜる」「目で見、匂いを嗅ぎ、なめて、触って調べろ」始めから終わりまで、ひたすら引き込まれる内容でした。日本男児の代表です。

土地本来の森、鎮守の森をモデルにした常緑樹の森づくりを日本のみならず世界で実践している神様みたいな方です。安城市で言えばシイ、タブ、カシの高木を主役にして、亜高木、低木を30cm間隔で混植して競争させて、土地に合った森ができると言う。あのみごとな鎮守の森が自分たちの手で、しかも現代の単一の木を支柱で支え、肥料や水を与え続け、消毒を繰り返すあまりにも自然とかけ離れた方法ではなく、ただ土地本来の植生をポットで根がぐるぐる巻きになるまで育て、それを密植、混植させて一気に根を伸ばさせるのである。盆栽を土に戻してやるとビックリするくらいに大きく育ったことを思い出して妙に納得できた。日本には本来の森が0.06%しか残っていないという。深根性直根性のタブの木などは土に水を貯め、さらに火事を止める力がある。本来の森づくりを横浜国大、新日本製鐵、榊原市など多数のところでを行い、さらにボルネオ、万里の長城など地球上に土地本来の植生で3000万本の木を植えたとのこと。植林に参加された方のうれしそうな満足した顔、45度以上あるかという斜面のみごとの森に変身した映像が印象に残っています。しかも何百年とかかるのではなく、8年もすれば森らしくなり数十年で見事な森になっています。

私の夢で将来雑木林を手に入れたいと思っていましたが、むしろ荒地を手に入れて鎮守の森づくりをしたいと強く願いました。楽しい大きな夢ができました。

## 宮脇昭先生講演会を終えて

8月28日（土）、私たち NPO 森を再生する会が師と仰ぐ宮脇昭先生の講演会を感動のうちに終えることができました。宮脇先生自身が男のロマンを実践しておられる姿に胸を打たれます。

その土地には、土地本来に合った森がある！

### 目で見、匂いを嗅ぎ、なめて、触って調べろ！

確固たる理論と経験から、土地本来の森を調べ、世界中の森林を再生し続ける植物生態学者宮脇昭先生。これまで、3000万本の木を植え、今もポット苗を手にとり突進し続ける。

「心に木を植えましょう！」先生の話には常に情熱と教訓が満ちています。森が死んでいるのは、人間の心が荒れている結果ではないのか？死んだ森を魂の森に蘇らせよう！こんなメッセージが聞こえてきました。

参加者の **声**



宮脇先生揮毫による「緑のダム」。私たちのフィールド「流域住民でつくる水源の森」入り口

### 人生最高の出会い 三浦 進

今回の講演会では、宮脇先生の運転手をつとめ、昼食を共にし、先生のお人柄に触れることができ感激しました。先生のお話を聞いて目から鱗でした。本物の森づくりを教えてもらいました。本来の森は土地本来の木を混植・密植し、後は自然に任せることが大切で確かな方法であることがわかりました。先生の話は、先生自身が自分の足で歩いて調査し、実践した裏づけのある理論ですから説得力があります。

「自分の言ったことが間違っておれば腹切りものだ。」この言葉に科学者としての厳しさがあります。鋭い目を持って、物事の真実を実証的につかんでいく姿勢が並みの科学者と違います。

76歳と思えないエネルギーを感じますが、食事をはじめ自己管理をしっかりしておられる意志の強さ・生き方も大いに啓発されました。

### 鎮守の森づくりに納得！

事務局長 榊原和久

宮脇先生の講演会は映像とスライドを駆使した迫力満点の気合がほとばしる感動の時間

でした。心に木を植えましょう。森の下にはもう一つの森がある。引き算はやめて足し算をしていきましょう。「混ぜる、混ぜる混ぜる」「目で見、匂いを嗅ぎ、なめて、触って調べろ」始めから終わりまで、ひたすら引き込まれる内容でした。日本男児の代表です。

土地本来の森、鎮守の森をモデルにした常緑樹の森づくりを日本のみならず世界で実践している神様みたいな方です。安城市で言えばシイ、タブ、カシの高木を主役にして、亜高木、低木を 30cm 間隔で混植して競争させて、土地に合った森ができると言う。あのみごとな鎮守の森が自分たちの手で、しかも現代の単一の木を支柱で支え、肥料や水を与え続け、消毒を繰り返すあまりにも自然とかけ離れた方法ではなく、ただ土地本来の植生をポットで根がぐるぐる巻きになるまで育て、それを密植、混植させて一気に根を伸ばさせるのである。盆栽を土に戻してやるとビックリするくらいに大きく育ったことを思い出して妙に納得できた。

日本には本来の森が 0,06%しか残っていないという。深根性直根性のタブの木などは土に水を貯め、さらに火事を止める力がある。本来の森づくりを横浜国大、新日本製鐵、檀原市など多数のところで行い、さらにボルネオ、万里の長城など地球上に土地本来の植生で 3000 万本の木を植えたとのこと。植林に参加された方のうれしそうな満足した顔、45 度以上あるかという斜面もみごとに森に変身した映像が印象に残っています。しかも何百年とかかるのではなく、8 年もすれば森らしくなり数十年で見事な森になっています。私の夢で将来雑木林を手に入れたいと思っていましたが、むしろ荒地を手に入れて鎮守の森づくりをしたいと強く願いました。楽しい大きな夢ができました。

[to p3](#)